

## 7. 風の駅舎番館（グループホーム）

現在、風の駅に完全移行（365日生活）されている方が2名、週末には帰宅される方が2名、体調等により不定期で利用されている方が1名という状況です。この先のことで、ごく近い将来に完全移行を目指す方が1名、そう遠くない将来に完全移行を目指す方が1名という状況です。スタッフのシフトも含めて対応できるよう考えていきたいと思えます。

前年度も述べましたが、障がい者が軽度の方については、「地域のなかで一人で暮らす」ことにチャレンジし、それを支援する方向性であると思えます。支援としては、新しく制度として創設された「自立生活援助=グループホームのスタッフが、地域の中で一人で暮らす人たちを巡回して相談を受けながら見守る」を活用して実施することが考えられます。指定申請だけでも年度の早い段階で実施していきたいと考えています。

報酬改定の問題です。介護度の高い方々をより受け入れやすくするためには、報酬改定は必須です。期待していましたが、見事に裏切られた思いです。これまで通りの報酬体系ということで、これでは介護度の高い方々が利用できるグループホームの整備は進まないと思えます。介護度が高いという事は、当然、手厚いスタッフの配置が必要となります。昨年に続き、本年度も約600万円の支出オーバーとなる見込みです。大変苦しい経営状況と言わざるを得ません。解決策について、スタッフ全員参加で検討をしていきたいと思えます。

ショートステイの問題です。介護度が高くなればなるほど、受け入れ先が限られてくるというのが実情です。裏返せばそれほど求められている支援という事になります。現在は、日帰りの日中一時という方が多いですが、やがては必要に応じてショートステイを実施できるような状況になると良いと思えます。利用者（ご家庭）さんにも積極的に利用を呼び掛けていきたいと思えます。

外出支援の問題です。前年度も、グループホームでの生活を、少しでも当たり前の生活に近づけていきたいと述べました。具体的にはこの問題にチャレンジしていくことが、必要であると考えます。地域生活支援事業所ふうや、他の外出支援事業所の利用も選択として含めて、より前へと進めていきたいと思えます。

式番館の問題です。具体的な検討に入りたいと考えています。これまで培ってきたノウハウを活かして、少しずつ前へと進めていける年にしたいと思えます。

（文責：大場保治）